



企業の結晶としての製品とサービス

令和6年7月3日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

知性の進歩は最大化し、創造性と独創性を与える。この挑戦は企業が自己の企業製品とサービスの構築への新しい可能性である。

企業製品は必ず企業の努力と理念の結晶である。創造性はその市場におけるトッププレゼンスの模索できるのである。

これら底辺からの積み重ねが、頂点に至ることは企業製品の構築がこれらにおいて実現できること意味するのである。

これらはソフト資産という理解が、知的集積と知的集約という今日の産業転換とともに、企業の完成への到達を与えるからなのである。

企業が大学機関と連携し、世界における先端研究を吸収し、製品における新しい可能性や機能性を実現することは、唯一時代という現実への参加を与える選択なのである。

時代先端性への到達という企業の挑戦は必ず正しいのである。これら優位性は未来を可能とする基盤であるのである。

また創造性は未来と拓く鍵なのである。これらが今日における革命的な企業における変化なのである。

世界のトップ企業との対等な企業製品基準における企業構築と整備は必ず実現できるのである。

これが企業基準の転換における新しい企業環境の構築である。企業基準はすべての現実の収束を与え、経営チームにおけるコンセンサスとともに、これら現実を可能とできるのである。

唯一留意すべきなのは先端技術と製品への理解というそれらへの優れた理解がこれらを可能とできるということである。